

別表3 環境影響要因と環境影響評価の項目との関係

No.1

対象事業の種類		(1) 道路の建設						
		環境影響要因の別			存在・供用			
		建設機械の稼働	工事	造成等の工事	道路等の存在	自動車の走行	休憩所の供用	
環境影響評価の項目	大気質	二酸化窒素又は窒素酸化物	○	○			○	
		二酸化硫黄又は硫酸酸化物						
		浮遊粒子状物質	△	△			○	
		炭化水素					△	
		粉じん		○	○			
		大気質に係る有害物質等						
	騒音・低周波音	騒音	○	○			○	
		低周波音					△*1	
	振動	振動	○	○			○	
	悪臭	臭気指数又は臭気の濃度						
		特定悪臭物質						
	環境の良好な状態の保持を旨として調査、予測及び評価されるべき項目	水質	公共用水域の水質	生物化学的酸素要求量又は化学的酸素要求量				△
				浮遊物質		△		△
				窒素及びリン				
			水温					
			水素イオン濃度					
			溶解酸素量					
		底質	その他の生活環境項目					
			健康項目等					
		地下水の水質	地下水の水質に係る有害項目					
		水象	河川等の流量、流速及び水位			△		△
	地下水の水位及び水脈				△	○*3*4		
	土壌	温泉及び鉱泉						
		堤防、水門、堰等の施設						
	地盤	土壌に係る有害項目						
地象	地盤沈下				○*3*4			
	土地の安定性			△	○*2*3			
	地形及び地質（保存すべき地形及び地質を含む。）				△			
	表土の状況及び生産性							
生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全を旨として調査、予測及び評価されるべき項目	動物	保全すべき種	△	△	△	△	△	
	植物	保全すべき種			△	△	△	
		保全すべき種及び群落			△	△	△	
	生態系	緑の量				△		
	地域を特徴付ける生態系			△	△	△		
人と自然との豊かなふれあいの確保及び快適な生活環境の保全を旨として調査、予測及び評価されるべき項目	景観	景観資源（自然的景観資源及び歴史的景観資源）				○		
		眺望景観				○		
	自然とのふれあいの場	自然とのふれあいの場	△	△	△	△	△	
	史跡・文化財	指定文化財等				○		
		埋蔵文化財				○		
	日照障害	日影の状況				△*1*2		
	電波障害	電波受信状況				△*1*2		
風害	局所的な風の発生状況							
環境への負荷の量の程度により予測及び評価されるべき項目	廃棄物等	廃棄物			○		○	
		残土			○			
	雨水及び処理水					△		
温室効果ガス等	温室効果ガス	△	△			△		
	オゾン層破壊物質					△		
人の生活の豊かさに関して予測及び評価されるべき項目	コミュニティ	コミュニティ施設等	△	△	△	△	△	
	地域交通	自動車交通		○			○	
		バス等の公共交通		△	△		△	
安全	歩行者・自転車交通		△	△		△		
	危険物等の安全性の確保					△		

- * 1 : 高架式の場合
- * 2 : 盛土式の場合
- * 3 : 掘割式の場合
- * 4 : 地下式の場合

注) 表中、選定項目以外の項目に対して、環境影響が相当程度となるおそれがあると認められる場合は、必要に応じて当該項目を追加すること。

別表3 環境影響要因と環境影響評価の項目との関係

No.2

対象事業の種類			(2)放水路又は堰の建設 (20) 調節池の設置																
環境影響要因の別			工事								存在・供用								
			放水路			堰又は調節池					放水路		堰又は調節池						
			建設機 械の稼 働	資材運 搬等の 車両の 走行	放水路 等の工 事	建設機 械の稼 働	資材運 搬等の 車両の 走行	堤体等 の工事	道路の 付け替 え工事	工事に 関係し た設置 工事	放水路の 存在・供 用	堤体の 存在	付け替 え道路 の存在 ・供用	貯水池 及び調 節池の 存在・ 供用	放水				
環境影響評価の項目																			
環境の良好な状態の保持を旨として調査、予測及び評価されるべき項目	大気質	二酸化窒素又は窒素酸化物	○	○		○	○												
		二酸化硫黄又は硫黄酸化物																	
		浮遊粒子状物質	△	△		△	△												
		炭化水素																	
		粉じん		○	○		○	○	○	○									
	大気質に係る有害物質等																		
	騒音・低周波音	騒音	○	○		○	○												
	低周波音																		
	振動	振動	○	○		○	○												
	悪臭	臭気指数又は臭気の濃度																	
	特定悪臭物質																		
	水質	公共域の水質	生物化学的酸素要求量又は化学的酸素要求量										○				○	○	
			浮遊物質			○				○	○	○	○				○	○	
			窒素及びリン														○	○	
			水温														○	○	
水素イオン濃度								△											
溶存酸素量															○				
その他の生活環境項目																			
健康項目等																			
底質	底質	強熱減量																	
		過マンガン酸カリウムによる酸素消費量																	
		底質に係る有害物質等																	
地下水の水質	地下水の水質に係る有害項目																		
水象	河川等の流量、流速及び水位											○				○	○		
		地下水の水位及び水脈											○						
		温泉及び鉱泉																	
堤防、水門、堰等の施設											○								
土壌	土壌に係る有害項目																		
地盤	地盤沈下			○								○							
地象	土地の安定性	地形及び地質(保存すべき地形及び地質を含む。)										○	○						
		表土の状況及び生産性																	
生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全を旨として調査、予測及び評価されるべき項目	動物	保全すべき種	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	
		保全すべき種																	
	植物	保全すべき種																	
		保全すべき種及び群落の緑の量																	
生態系	地域を特徴付ける生態系			△					△	△	△	△	△	△	△	△	△		
人と自然との豊かなふれあいの確保及び快適な生活環境の保全を旨として調査、予測及び評価されるべき項目	景観	景観資源(自然的景観資源及び歴史的景観資源)										△	○	○	○	○	○		
		眺望景観											△	○	○	○	○		
	自然とのふれあいの場	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△		
	史跡・文化財	指定文化財等										○	○	○	○	○	○		
	埋蔵文化財											○	○	○	○	○	○		
日照障害	日影の状況																		
電波障害	電波受信状況																		
風害	局所的な風の発生状況																		
環境への負荷の量の程度により予測及び評価されるべき項目	廃棄物等	廃棄物			○				○	○	○								
		残土			○				○	○	○								
雨水及び処理水																			
温室効果ガス等	温室効果ガス		△	△		△	△												
		オゾン層破壊物質																	
人の生活の豊かさに関して予測及び評価されるべき項目	コミュニティ	コミュニティ施設等	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△		
		自動車交通			○				○						○				
		バス等の公共交通			△				△						△				
		歩行者・自転車交通			△				△						△				
安全	危険物等の安全性の確保																		
凡例			○：標準的に選定する項目 △：事業特性、地域特性により選定する項目																

注) 表中、選定項目以外の項目に対して、環境影響が相当程度となるおそれがあると認められる場合は、必要に応じて当該項目を追加すること。

別表3 環境影響要因と環境影響評価の項目との関係

No.3

対象事業の種類		(3) 鉄道又は軌道の建設						
環境影響要因の例		工事			存在・供用			
		建設機械の稼働	資材運搬等の車両の走行	造成等の工事	鉄道施設の存在	列車の走行	駅舎等の供用(駅周辺の交通量の増加を含む)	
環境影響評価の項目								
環境の良好な状態の保持を旨として調査、予測及び評価されるべき項目	大気質	二酸化窒素又は窒素酸化物	○	○			△	
		二酸化硫黄又は硫酸酸化物						
		浮遊粒子状物質	△	△			△	
		炭化水素					△	
		粉じん		○	○			
	大気質に係る有害物質等							
	騒音・低周波音	騒音	○	○		○	△	
		低周波音※				△*1		
	振動	振動	○	○		○		
	悪臭	臭気指数又は臭気の濃度						
		特定悪臭物質						
	水質	公共用水域の水質	生物化学的酸素要求量又は化学的酸素要求量			△		△
			浮遊物質					△
			窒素及び燐					
		水温						
	水素イオン濃度							
	溶解酸素量							
	その他の生活環境項目							
	健康項目等							
	底質	強熱減量						
		過マンガン酸カリウムによる酸素消費量						
		底質に係る有害物質等						
	地下水の水質	地下水の水質に係る有害項目						
水象	河川等の流量、流速及び水位	地下水の水位及び水脈			△		△	
		温泉及び鉱泉			△			
	堤防、水門、堰等の施設				○*3*4			
土壌	土壌に係る有害項目							
地盤	地盤沈下				○*3*4			
地象	土地の安定性	地形及び地質(保存すべき地形及び地質を含む。)			△	△*2*3	△	
		表土の状況及び生産性						
動物	保全すべき種	△	△	△	△	△		
植物	保全すべき種			△	△			
	保全すべき植生及び群落			△	△			
	緑の量				△			
生態系	地域を特徴付ける生態系			△	△			
人と自然との豊かなふれあいの確保及び快適な生活環境の保全を旨として調査、予測及び評価されるべき項目	景観	景観資源(自然的景観資源及び歴史的景観資源)				○		
		眺望景観				○		
	自然とのふれあいの場	自然とのふれあいの場	△	△	△	△	△	
	史跡・文化財	指定文化財等				○		
		埋蔵文化財				○		
日照障害	日影の状況				△*1*2			
電波障害	電波受信状況				△*1*2			
風害	局所的な風の発生状況							
環境への負荷の量の程度により予測及び評価されるべき項目	廃棄物等	廃棄物			○		○	
		残土			○			
	雨水及び処理水							
温室効果ガス等	温室効果ガス	オゾン層破壊物質	△	△			△	
コミュニティ	コミュニティ施設等	△	△	△	△	△		
人の生活の豊かさに関して予測及び評価されるべき項目	地域交通	自動車交通		○		△	○	
		バス等の公共交通		△		△	△	
		歩行者・自転車交通		△		△	△	
安全	危険物等の安全性の確保					△		
凡例		○：標準的に選定する項目 △：事業特性、地域特性により選定する項目						

- * 1：高架式の場合
- * 2：盛土式の場合
- * 3：掘割式の場合
- * 4：地下式の場合

※高速鉄道の場合においては、トンネルに突入する際の衝撃音を含む。

(注) 表中、選定項目以外の項目に対して、環境影響が相当程度となるおそれがあると認められる場合は、必要に応じて当該項目を追加すること。

別表3 環境影響要因と環境影響評価の項目との関係

対象事業の種類		環境影響要因の例	(4) 飛行場の建設							
			工事			存在・供用				
			建設機械 の稼働	資材運搬 等の車両 の走行	造成等の 工事	飛行場の存在		航空機の運航		飛行場 施設の供用 (周辺交 通量の増 加を含む)
環境影響評価の項目		(飛行場の場合のみ)			飛行場	滑走路	飛行場	滑走路	飛行場	
		環境の良好な状態の保持 を旨として調査、予測及 び評価されるべき項目	大気質	二酸化窒素又は窒素酸化物	○	○				○
二酸化硫黄又は硫酸酸化物										
浮遊粒子状物質	△			△				△	△	△
炭化水素								△	△	△
粉じん				○	○		△			
大気質に係る有害物質等										
騒音・低周波音	騒音		○	○				○	○	○
	低周波音								○	
振動			○	○					○	
悪臭	臭気指数又は臭気の濃度									
	特定悪臭物質									
水質	公共用水 域の水質		生物化学的酸素要求量又は化学的酸 素要求量							△
			浮遊物質			○				△
			窒素及び磷							
	水温									
水素イオン濃度										
溶存酸素量										
その他の生活環境項目										
健康項目等										
底質	強熱減量									
	過マンガン酸カリウムによる酸素消 費量									
底質に係る有害物質等										
地下水の 水質	地下水の水質に係る有害項目									
水象	河川等の流量、流速及び水位			△	△				△	
	地下水の水位及び水脈									
	温泉及び鉱泉									
	堤防、水門、堰等の施設									
土壌	土壌に係る有害項目									
地盤	地盤沈下									
地象	土地の安定性 (地形及び地質(保存すべき地形及び地質を含む。))					△				
	表土の状況及び生産性					△				
生物の多様性の確保及び 自然環境の体系的保全を 旨として調査、予測及び 評価されるべき項目	動物	保全すべき種	△	△	△	△	△	△	△	
	植物	保全すべき種			△	△	△			
		保全すべき種生及び群落 緑の量			△	△	△	△		
生態系	地域を特徴づける生態系			△	△	△				
人と自然との豊かなふれ あいの確保及び快適な生 活環境の保全を旨として 調査、予測及び評価され るべき項目	景観	景観資源(自然的景観資源及び歴史的景観資源)				○	△			
		眺望景観				○	△			
	自然とのふれ あいの場	自然とのふれあいの場	△	△	△	△	△	△	△	
	史跡・文化財	指定文化財等 埋蔵文化財				○	○			
	日照障害	日影の状況								
電波障害	電波受信状況						○			
風害	局所的な風の発生状況									
環境への負荷の量の程度 により予測及び評価され るべき項目	廃棄物等	廃棄物			○				○	
		残土			○				○	
		雨水及び処理水							○	
温室効果ガス 等	温室効果ガス	△	△				△	△		
	オゾン層破壊物質							△		
人の生活の豊かさに関し て予測及び評価されるべ き項目	コミュニティ	コミュニティ施設等	△	△	△	△	△	△	△	
	地域交通	自動車交通		○		○			○	
		バス等の公共交通 歩行者・自転車交通			△		△		△	
安全	危険物等の安全性の確保							○		

凡例 ○：標準的に選定する項目 △：事業特性、地域特性により選定する項目

注) 表中、選定項目以外の項目に対して、環境影響が相当程度となるおそれがあると認められる場合は、必要に応じて当該項目を追加すること。

別表3 環境影響要因と環境影響評価の項目との関係

環境影響評価の項目		対象事業の種類		(5) 工場又は事業場の建設		(6) 廃棄物処理施設の建設		(7) 下水道終末処理場の建設						
		環境影響要因の例		工事		造成地・施設の存在		存在・供用						
		建設機械の稼働	資材運搬等の車の走行	造成等の工事	最終処分場	その他	工場又は事業場	ごみ処理施設	し尿処理施設	最終処分場	産業廃棄物中間処理施設	積み替え・保管施設	下水道終末処理場	自動車等の走行
環境の良好な状態の保持を旨として調査、予測及び評価されるべき項目	大気質	二酸化窒素又は窒素酸化物	○	○			△	○		△	△	△		○
		二酸化硫黄又は硫酸酸化物						△	○		△	△		○
		浮遊粒子状物質	△	△				△	○		△	△		○
		炭化水素						△						△
		粉じん		○	○						○			
	騒音・低周波音	騒音	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○
	振動	振動	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○
	悪臭	臭気指数又は臭気の濃度					△	○	○	○	○	○	○	○
		特定悪臭物質					△	○	○	○	○	○	○	○
	水質	公共用水域の水質	生物化学的酸素要求量又は化学的酸素要求量					△	○	○	○	△		○
			浮遊物質			○		△	○	○	○	△	△	○
			窒素及びリン					△	○	○	○	△		○
		底質	水温					△		△				△
	水素イオン濃度						△	○	○	○	△		○	
	溶解酸素量						△	○	○	○	△		○	
その他の生活環境項目	健康項目等					△	○	○	○	△	△	○		
地下水の水質	地下水の水質に係る有害項目						△			○	△			
	河川等の流量、流速及び水位			△			△	△	△	△			○	
水象	地下水の水位及び水脈			△	○	△								
	温泉及び鉱泉												○	
堤防、水門、堰等の施設												○		
土壌	土壌に係る有害項目						△	○		○	○			
地盤	地盤沈下					○	△							
地象	土地の安定性			△	○	△								
	地形及び地質（保存すべき地形及び地質を含む。）			△	○	△								
表土の状況及び生産性				△	△	△								
生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全を旨として調査、予測及び評価されるべき項目	動物	保全すべき種	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	
	植物	保全すべき種			△	△	△	△	△	△	△	△	△	
		保存すべき種及び群落			△	△	△	△	△	△	△	△	△	
緑の量				△	△	△						△		
生態系	地域を特徴づける生態系			△	△	△	△	△					△	
人と自然との豊かなふれあいの確保及び快適な生活環境の保全を旨として調査、予測及び評価されるべき項目	景観	景観資源（自然的景観資源及び歴史的景観資源）				○	○							
		眺望景観				○	○							
	自然とのふれあいの場	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	
	史跡・文化財	指定文化財等				○	○							
	埋蔵文化財					○	○							
日照障害	日影の状況					△								
電波障害	電波受信状況					△								
風害	局所的な風の発生状況													
環境への負荷の量の程度により予測及び評価されるべき項目	廃棄物等	廃棄物			○		○	○	○	○			○	
		残土			○									
	雨水及び処理水						○	○	○	○			○	
温室効果ガス等	温室効果ガス	△	△			△	△	△	△	△	△	△		
オゾン層破壊物質						△	△		△	△	△	△		
人の生活の豊かさに関して予測及び評価されるべき項目	コミュニティ	コミュニティ施設等	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	
		自動車交通		○									○	
	バス等の公共交通		△										△	
歩行者・自転車交通		△										△		
安全	危険物等の安全性の確保						○	○	○	○	○	△	○	

注) 表中、選定項目以外の項目に対して、環境影響が相当程度となるおそれがあると認められる場合は、必要に応じて当該項目を追加すること。

別表3 環境影響要因と環境影響評価の項目との関係

対象事業の種類		環境影響要因の例		(8) 高層建築物の建設			(9) 大規模建築物の建設		
				工事			存在・供用		
環境影響評価の項目				建設機械の稼働	資材運搬等の車両の走行	造成等の工事	敷地及び施設の存在	施設の稼働及び人の利用	自動車交通の発生
				環境の良好な状態の保持を旨として調査、予測及び評価されるべき項目	大気質	二酸化窒素又は窒素酸化物 二酸化硫黄又は硫酸酸化物 浮遊粒子状物質 炭化水素 粉じん 大気質に係る有害物質等	○	○	
△	△						△	△	
								△	△
		○							△
							○		
騒音・低周波音	騒音 低周波音	○	○				△	△	
振動	振動	○	○					△	
悪臭	臭気指数又は臭気の濃度 特定悪臭物質								
水質	公共用水域の水質 生物化学的酸素要求量又は化学的酸素要求量 浮遊物質 窒素及び磷 水温 水素イオン濃度 溶存酸素量 その他の生活環境項目 健康項目等							△	
底質	強熱減量 過マンガン酸カリウムによる酸素消費量 底質に係る有害物質等								
地下水の水質	地下水の水質に係る有害項目								
水象	河川等の流量、流速及び水位 地下水の水位及び水脈 温泉及び鉱泉 堤防、水門、堰等の施設					△		△	
						△			
土壌	土壌に係る有害項目								
地盤	地盤沈下					△			
地象	土地の安定性 地形及び地質（保存すべき地形及び地質を含む。） 表土の状況及び生産性				△	△	△		
						△			
生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全を旨として調査、予測及び評価されるべき項目	動物 植物 生態系	保全すべき種	△	△	△	△	△	△	
		保全すべき種			△	△	△		
		保全すべき植生及び群落 緑の量			△	△	△	△	
人と自然との豊かなふれあいの確保及び快適な生活環境の保全を旨として調査、予測及び評価されるべき項目	景観 自然とのふれあいの場 史跡・文化財 日照障害 電波障害 風害	景観資源（自然的景観資源及び歴史的景観資源） 眺望景観				○			
		自然とのふれあいの場	△	△	△	△	△	△	
		指定文化財等 埋蔵文化財					○		
		日影の状況					○		
		電波受信状況					○		
		局所的な風の発生状況					△		
環境への負荷の量の程度により予測及び評価されるべき項目	廃棄物等 温室効果ガス等	廃棄物 残土 雨水及び処理水			○		△		
		温室効果ガス オゾン層破壊物質	△	△			△	△	
人の生活の豊かさに関して予測及び評価されるべき項目	コミュニティ 地域交通 安全	コミュニティ施設等	△	△	△	△	△		
		自動車交通 バス等の公共交通 歩行者・自転車交通		○			○		
		危険物等の安全性の確保		△			△		

凡例 ○：標準的に選定する項目 △：事業特性、地域特性により選定する項目

注) 表中、選定項目以外の項目に対して、環境影響が相当程度となるおそれがあると認められる場合は、必要に応じて当該項目を追加すること。

別表3 環境影響要因と環境影響評価の項目との関係

対象事業の種類		(10) 研究施設の建設							
		環境影響要因の例			存在・供用				
環境影響評価の項目				建設機械の稼働	工事	造成等の工事	敷地及び施設の存在	施設の稼働	自動車交通の発生
					資材運搬等の車両の走行				
環境の良好な状態の保持を旨として調査、予測及び評価されるべき項目	大気質	二酸化窒素又は窒素酸化物		○	○			△	△
		二酸化硫黄又は硫酸酸化物							
		浮遊粒子状物質		△	△			△	△
		炭化水素							△
		粉じん			○	○			
	大気質に係る有害物質等						△		
	騒音・低周波音	騒音		○	○			△	△
		低周波音						△	
	振動	振動		○	○			△	△
	悪臭	臭気指数又は臭気の濃度						△	
		特定悪臭物質						△	
	水質	公共用水域の水質	生物化学的酸素要求量又は化学的酸素要求量					△	
			浮遊物質			○		△	
			窒素及びリン						
			水温						
			水素イオン濃度						
	底質	地下水の水質	溶解酸素量						
			その他の生活環境項目						△
			健康項目等						△
	水象	河川等の流量、流速及び水位	強熱減量						
			過マンガン酸カリウムによる酸素消費量						
	土壌	土壌に係る有害項目	底質に係る有害物質等					△	
			地下水の水質					△	
地盤	地盤沈下	地下水の水質に係る有害項目					△		
		河川等の流量、流速及び水位			△		△		
地象	土地の安定性	地下水の水位及び水脈			△		△		
		地形及び地質（保存すべき地形及び地質を含む。）					△		
生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全を旨として調査、予測及び評価されるべき項目	動物	温泉及び鉱泉							
		堤防、水門、堰等の施設							
植物	保全すべき種	土壌に属する有害項目					△		
		土地の安定性			△		△		
生態系	地域を特徴づける生態系	地形及び地質（保存すべき地形及び地質を含む。）					△		
		表土の状況及び生産性					△		
人と自然との豊かなふれあいの確保及び快適な生活環境の保全を旨として調査、予測及び評価されるべき項目	景観	表土の状況及び生産性							
		景観資源（自然的景観資源及び歴史的景観資源）					△		
環境への負荷の量の程度により予測及び評価されるべき項目	廃棄物等	眺望景観					△		
		自然とのふれあいの場	△	△	△	△	△	△	
人の生活の豊かさに関して予測及び評価されるべき項目	コミュニティ	指定文化財等					○		
		埋蔵文化財					○		
環境への負荷の量の程度により予測及び評価されるべき項目	温室効果ガス等	日照阻害					△		
		電波障害					△		
人の生活の豊かさに関して予測及び評価されるべき項目	地域交通	風害							
		局所的な風の発生状況							
環境への負荷の量の程度により予測及び評価されるべき項目	廃棄物等	廃棄物			○		○		
		残土			○				
人の生活の豊かさに関して予測及び評価されるべき項目	安全	雨水及び処理水					○		
		温室効果ガス	△	△			△	△	
環境への負荷の量の程度により予測及び評価されるべき項目	廃棄物等	オゾン層破壊物質							
		コミュニティ施設等	△	△	△	△	△	△	
人の生活の豊かさに関して予測及び評価されるべき項目	地域交通	自動車交通		○				○	
		バス等の公共交通		△				△	
環境への負荷の量の程度により予測及び評価されるべき項目	安全	歩行者・自転車交通		△				△	
		危険物等の安全性の確保					○		

注) 表中、選定項目以外の項目に対して、環境影響が相当程度となるおそれがあると認められる場合は、必要に応じて当該項目を追加すること。

別表3 環境影響要因と環境影響評価の項目との関係

対象事業の種類		(11) 浄水施設の建設						
		工事			存在・供用			
環境影響評価の項目		建設機械の稼働	資材運搬等の車両の走行	造成等の工事	敷地及び施設の使用	施設の稼働	自動車交通の発生	
環境の良好な状態の保持を旨として調査、予測及び評価されるべき項目	大気質	二酸化窒素又は窒素酸化物	○	○			△	
		二酸化硫黄又は硫酸酸化物					△	
		浮遊粒子状物質	△	△			△	
		炭化水素					△	
		粉じん		○	○			
	大気質に係る有害物質等							
	騒音・低周波音	騒音	○	○			○	△
		低周波音					△	
	振動	振動	○	○			○	△
	悪臭	臭気指数又は臭気の濃度						
		特定悪臭物質						
	水質	公共用水域の水質	生物化学的酸素要求量又は化学的酸素要求量			○		△
			浮遊物質					△
			窒素及びリン					
			水温					
			水素イオン濃度					△
			溶存酸素量					
		底質	その他の生活環境項目					△
			健康項目等					
			強熱減量					
過マンガン酸カリウムによる酸素消費量								
底質に係る有害物質等								
地下水の水質	地下水の水質に係る有害項目							
水象	河川等の流量、流速及び水位			△		△		
	地下水の水位及び水脈			△	△			
	温泉及び鉱泉							
	堤防、水門、堰等の施設							
土壌	土壌に係る有害項目							
地盤	地盤沈下				△			
	土地の安定性	地形及び地質（保存すべき地形及び地質を含む。）			△	△		
		表土の状況及び生産性				△		
動物	保全すべき種	△	△	△	△	△		
植物	保全すべき種			△	△	△		
	保存すべき種及び群落			△	△	△		
生態系	緑の量			△	△	△		
	地域を特徴づける生態系			△				
人と自然との豊かなふれあいの確保及び快適な生活環境の保全を旨として調査、予測及び評価されるべき項目	景観	景観資源（自然的景観資源及び歴史的景観資源）				△		
	眺望景観					△		
	自然とのふれあいの場	自然とのふれあいの場	△	△	△	△	△	
	史跡・文化財	指定文化財等				○		
	埋蔵文化財					○		
日照阻害	日影の状況							
電波障害	電波受信状況							
風害	局所的な風の発生状況							
環境への負荷の量の程度により予測及び評価されるべき項目	廃棄物等	廃棄物			○		○	
		残土			○			
		雨水及び処理水					△	
温室効果ガス等	温室効果ガス	△	△			△	△	
	オゾン層破壊物質							
人の生活の豊かさに関して予測及び評価されるべき項目	コミュニティ	コミュニティ施設等	△	△	△	△	△	
		自動車交通		○			○	
	地域交通	バス等の公共交通		△			△	
		歩行者・自転車交通		△			△	
安全	危険物等の安全性の確保					△		

凡例 ○：標準的に選定する項目 △：事業特性、地域特性により選定する項目

注) 表中、選定項目以外の項目に対して、環境影響が相当程度となるおそれがあると認められる場合は、必要に応じて当該項目を追加すること。

別表3 環境影響要因と環境影響評価の項目との関係

対象事業の種類		(12) 公園の建設							
環境影響評価の項目		環境影響要因の例	工事			存在・供用			
			建設機械の稼働	資材運搬等の車両の走行	造成等の工事	敷地及び施設の存在	施設の供用	農業の使用	自動車交通の発生
環境の良好な状態の保持を旨として調査、予測及び評価されるべき項目	大気質	二酸化窒素又は窒素酸化物	○	○					○
		二酸化硫黄又は硫酸酸化物							
		浮遊粒子状物質	△	△					△
		炭化水素							△
		粉じん		○	○		△		
		大気質に係る有害物質等							
	騒音・低周波音	騒音	○	○			○		○
		低周波音							
	振動	振動	○	○					○
	悪臭	臭気指数又は臭気の濃度							
		特定悪臭物質							
	水質	公共用水域の水質	生物化学的酸素要求量又は化学的酸素要求量					○	
			浮遊物質			○			
			窒素及びリン						
		水温							
			水素イオン濃度						
			溶存酸素量						
			その他の生活環境項目						○
			健康項目等						
	底質	強熱減量							
過マンガン酸カリウムによる酸素消費量									
	底質に係る有害物質等								
地下水の水質	地下水の水質に係る有害項目								
水象	河川等の流量、流速及び水位			△	△	△	△		
	地下水の水位及び水断								
	温泉及び鉱泉								
	堤防、水門、堰等の施設								
土壌	土壌に係る有害項目								
地盤	地盤沈下								
地象	土地の安定性			△	△				
	地形及び地質（保存すべき地形及び地質を含む。）				△				
	表土の状況及び生産性					○			
生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全を旨として調査、予測及び評価されるべき項目	動物	保全すべき種	△	△	△	△	△	△	
	植物	保全すべき種			△	△	△	△	
		保存すべき種及び群落			△	△	△	△	
	緑の量				△				
生態系	地域を特徴づける生態系			△	△	△	△		
人と自然との豊かなふれあいの確保及び快適な生活環境の保全を旨として調査、予測及び評価されるべき項目	景観	景観資源（自然的景観資源及び歴史的景観資源）				△			
		眺望景観				△			
	自然とのふれあいの場	自然とのふれあいの場	△	△	△	△	△	△	
	史跡・文化財	指定文化財等				○			
		埋蔵文化財				○			
	日照障害	日影の状況							
	電波障害	電波受信状況							
風害	局所的な風の発生状況								
環境への負荷の量の程度により予測及び評価されるべき項目	廃棄物等	廃棄物			○		○		
		残土			○				
		雨水及び処理水					○		
温室効果ガス等	温室効果ガス	△	△			△		△	
	オゾン層破壊物質								
人の生活の豊かさに関して予測及び評価されるべき項目	コミュニティ	コミュニティ施設等	△	△	△	△	△	△	
	地域交通	自動車交通		○				○	
		バス等の公共交通		△				△	
		歩行者・自転車交通		△				△	
安全	危険物等の安全性の確保					△	△		

凡例 ○：標準的に選定する項目 △：事業特性、地域特性により選定する項目

注) 表中、選定項目以外の項目に対して、環境影響が相当程度となるおそれがあると認められる場合は、必要に応じて当該項目を追加すること。

別表3 環境影響要因と環境影響評価の項目との関係

No.1 O

対象事業の種類		(13) 電気工作物の建設							
環境影響評価の項目		環境影響要因の例		工事		存在・供用			
		建設機械の稼働	資材運搬等の車両の走行	造成等の工事	敷地及び施設 の存在	施設の稼働	自動車交通の 発生		
環境の良好な状態の保持を旨として調査、予測及び評価されるべき項目	大気質	二酸化窒素又は窒素酸化物		○	○		△	△	
		二酸化硫黄又は硫黄酸化物					△		
		浮遊粒子状物質		△	△		△	△	
		炭化水素			○	○		△	
		粉じん						△	
	大気質に係る有害物質等						△		
	騒音・低周波音	騒音		○	○		△	△	
		低周波音					△		
	振動	振動		○	○		△	△	
	悪臭	臭気指数又は臭気の濃度					△		
		特定悪臭物質					△		
	水質	公共用水域の水質	生物化学的酸素要求量又は化学的酸素要求量				○	△	
			浮遊物質					△	
			窒素及びリン					△	
			水温						
	水素イオン濃度								
	底質	溶解酸素量							
		その他の生活環境項目							
		健康項目等					△		
	地下水の水質	地下水の水質に係る有害項目					△		
					△				
水象	河川等の流量、流速及び水位				△	△			
	地下水の水位及び水脈				△	△			
土壌	温泉及び鉱泉								
	堤防、水門、堰等の施設								
地盤	土壌に係る有害項目					△			
地象	地盤沈下					△			
	土地の安定性				△	△			
動物	地形及び地質（保存すべき地形及び地質を含む。）					△			
	表土の状況及び生産性								
植物	表土の状況及び生産性		△	△	△	△	△		
	保存すべき種				△	△			
生態系	保存すべき種				△	△			
	保存すべき種及び群落				△	△			
景観	緑の量					△			
	地域を特徴づける生態系				△	△			
自然とのふれあいの場	景観資源（自然的景観資源及び歴史的景観資源）					△			
	眺望景観					△			
史跡・文化財	自然とのふれあいの場		△	△	△	△	△		
	指定文化財等					○			
日照障害	埋蔵文化財					○			
	電波障害								
風害	電波受信状況					○			
	局所的な風の発生状況								
廃棄物等	廃棄物				○	△			
	残土				○	△			
温室効果ガス等	雨水及び処理水					△			
	温室効果ガス		△	△		△	△		
オゾン層破壊物質	オゾン層破壊物質								
コミュニティ	コミュニティ施設等		△	△	△	△	△		
	自動車交通			○			○		
バス等の公共交通	歩行者・自転車交通			△			△		
	安全			△			△		
危険物等の安全性の確保						△			

凡例 ○：標準的に選定する項目 △：事業特性、地域特性により選定する項目

注) 表中、選定項目以外の項目に対して、環境影響が相当程度となるおそれがあると認められる場合は、必要に応じて当該項目を追加すること。

別表3 環境影響要因と環境影響評価の項目との関係

対象事業の種類		(14) 住宅団地の造成 (18) 土地区画整理事業								
環境影響評価の項目		環境影響要因の列	工事			存在・供用				
			建設機械の稼働	資材運搬等の車両の走行	造成等の工事	敷地及び施設 の存在	居住施設の 供用	業務用施設 の供用	自動車交通 の発生	
環境の良好な状態の保持を旨として調査、予測及び評価されるべき項目	大気質	二酸化窒素又は窒素酸化物	○	○					○	
		二酸化硫黄又は硫酸酸化物								
		浮遊粒子状物質	△	△					△	
		炭化水素			○				△	
		粉じん								
	大気質に係る有害物質等									
	騒音・低周波音	騒音	○	○					△	
		低周波音							○	
	振動	振動	○	○					○	
	悪臭	臭気指数又は臭気の濃度								
		特定悪臭物質								
	水質	公共用水域の水質	生物化学的酸素要求量又は化学的酸素要求量			○		△	△	
			浮遊物質							
			窒素及びリン							
		底質	水温							
地下水の水質	水素イオン濃度									
	溶解酸素量									
水象	その他の生活環境項目									
	健康項目等									
土壌	強熱減量									
	過マンガン酸カリウムによる酸素消費量									
地盤	底質に係る有害物質等									
	地下水の水質に係る有害項目									
地象	河川等の流量、流速及び水位			△	△	△	△			
	地下水の水位及び水脈				△					
地象	温泉及び鉱泉									
	堤防、水門、堰等の施設									
生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全を旨として調査、予測及び評価されるべき項目	動物	保全すべき種	△	△	△	△	△	△		
	植物	保全すべき種			△	△	△	△		
人と自然との豊かなふれあいの確保及び快適な生活環境の保全を旨として調査、予測及び評価されるべき項目	生態系	保存すべき植生及び群落			△	△	△	△		
	景観	地帯を特徴づける生態系			△	△				
景観	景観資源（自然的景観資源及び歴史的景観資源）				○					
	眺望景観				○					
自然とのふれあいの場	自然とのふれあいの場	△	△	△	△	△	△	△		
	指定文化財等				○					
史跡・文化財	埋蔵文化財				○					
	日照障害	日影の状況								
電波障害	電波受信状況									
	風害	局所的な風の発生状況								
環境への負荷の量の程度により予測及び評価されるべき項目	廃棄物等	廃棄物			○		△	○		
	温室効果ガス等	残土			○					
人の生活の豊かさに関して予測及び評価されるべき項目	地域交通	雨水及び処理水					△	○		
	安全	温室効果ガス	△	△			△	△		
安全	オゾン層破壊物質	コミュニティ施設等	△	△	△	△	△	△		
	自動車交通	自動車交通		○		△		○		
バス等の公共交通	歩行者・自転車交通			△	△	△		△		
	危険物等の安全性の確保									

凡例 ○：標準的に選定する項目 △：事業特性、地域特性により選定する項目

注) 表中、選定項目以外の項目に対して、環境影響が相当程度となるおそれがあると認められる場合は、必要に応じて当該項目を追加すること。

別表3 環境影響要因と環境影響評価の項目との関係

No.12

対象事業の種類		(15) 工業団地の造成 (16) 流通業務施設用地の造成							
環境影響要因の例		工事			存在・供用				
		建設機械の稼働	資材運搬等の車両の走行	造成等の工事	敷地及び施設	施設の稼働		自動車交通の発生	
環境影響評価の項目						工業団地	流通業務施設		
環境の良好な状態の保持を旨として調査、予測及び評価されるべき項目	大気質	二酸化窒素又は窒素酸化物	○	○			○		○
		二酸化硫黄又は硫酸酸化物					○		
		浮遊粒子状物質	△	△			○		○
		炭化水素					○		△
		粉じん		○	○				
		大気質に係る有害物質等					○		
	騒音・低周波音	騒音	○	○			○		○
		低周波音					○		
	振動	○	○			○		○	
	悪臭	臭気指数又は臭気の濃度					○		
		特定悪臭物質					○		
	水質	公共用水域の水質	生物化学的酸素要求量又は化学的酸素要求量				○	△	
			浮遊物質			○	○		
			窒素及びリン				○		
		底質	水温				△		
		水素イオン濃度							
		溶存酸素量							
		その他の生活環境項目							
		健康項目等					○		
		地下水の水質	地下水の水質に係る有害項目				○		
水象	河川等の流量、流速及び水位			△	△	○	△		
	地下水の水位及び水脈			△	△				
	温泉及び鉱泉								
	堤防、水門、堰等の施設								
土壌	土壌に係る有害項目					○			
地盤	地盤沈下				△				
地象	土地の安定性			△	△				
	地形及び地質(保存すべき地形及び地質を含む。)				△				
	表土の状況及び生産性								
生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全を旨として調査、予測及び評価されるべき項目	動物	保全すべき種	△	△	△	△	△	△	
	植物	保全すべき種			△	△	△	△	
		保存すべき種及び群落			△	△	△	△	
生態系	地域を特徴づける生態系			△	△	△			
人と自然との豊かなふれあいの確保及び快適な生活環境の保全を旨として調査、予測及び評価されるべき項目	景観	景観資源(自然的景観資源及び歴史的景観資源)				○			
		眺望景観				○			
	自然とのふれあいの場	自然とのふれあいの場	△	△	△	△	△	△	
	史跡・文化財	指定文化財等				○			
		埋蔵文化財				○			
	日照障害	日影の状況				△			
電波障害	電波受信状況				△				
風害	局所的な風の発生状況								
環境への負荷の量の程度により予測及び評価されるべき項目	廃棄物等	廃棄物			○	○	○		
		残土			○				
		雨水及び処理水				○	○		
温室効果ガス等	温室効果ガス	△	△		△	△	△		
	オゾン層破壊物質				△	△			
人の生活の豊かさに関して予測及び評価されるべき項目	コミュニティ	コミュニティ施設等	△	△	△	△	△	△	
	地域交通	自動車交通		○		△		○	
		バス等の公共交通		△	△	△	△	△	
安全	歩行者・自転車交通		△	△	△	△	△		
	危険物等の安全性の確保					○			

凡例 ○：標準的に選定する項目 △：事業特性、地域特性により選定する項目

注) 表中、選定項目以外の項目に対して、環境影響が相当程度となるおそれがあると認められる場合は、必要に応じて当該項目を追加すること。

別表3 環境影響要因と環境影響評価の項目との関係

No.1 3

対象事業の種類			(17) 学校用地の造成			(19) 開発行為に係る事業			
環境影響評価の項目	環境影響要因の例		工事			存在・供用			
			建設機械の稼働	資材運搬等の車両の走行	造成等の工事	敷地及び施設の存在	施設の供用	自動車交通の発生	
環境の良好な状態の保持を旨として調査、予測及び評価されるべき項目	大気質	二酸化窒素又は窒素酸化物	○	○				△	
		二酸化硫黄又は硫黄酸化物							
		浮遊粒子状物質	△	△				△	
		炭化水素						△	
		粉じん		○	○	△*1			
		大気質に係る有害物質等							
	騒音・低周波音	騒音		○	○			△	
		低周波音						△	
	振動	振動	○	○				△	
	悪臭	臭気指数又は臭気の濃度							
		特定悪臭物質							
	水質	公共用水域の水質	生物化学的酸素要求量又は化学的酸素要求量						△
			浮遊物質			○			
			窒素及びリン						
		底質	水温						
水素イオン濃度									
	溶解酸素量								
	その他の生活環境項目								
	健康項目等								
水象	地下水の水質	強熱減量							
		過マンガン酸カリウムによる酸素消費量							
	底質に係る有害物質等								
	地下水の水質に係る有害項目								
水象	河川等の流量、流速及び水位	地下水の水位及び水脈			△	△	△		
		温泉及び鉱泉				△			
	堤防、水門、堰等の施設								
土壌	土壌に係る有害項目								
地盤	地盤沈下					△			
地象	土地の安定性	地形及び地質（保存すべき地形及び地質を含む。）			△	△	△		
		表土の状況及び生産性					△		
生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全を旨として調査、予測及び評価されるべき項目	動物	保全すべき種	△	△	△	△	△	△	
	植物	保全すべき種			△	△	△		
		保存すべき植生及び群落			△	△	△		
	緑の量					△			
生態系	地域を特徴づける生態系			△	△				
人と自然との豊かなふれあいの確保及び快適な生活環境の保全を旨として調査、予測及び評価されるべき項目	景観	景観資源（自然的景観資源及び歴史的景観資源）					△		
		眺望景観					△		
	自然とのふれあいの場	自然とのふれあいの場	△	△	△	△	△	△	
	史跡・文化財	指定文化財等					○		
		埋蔵文化財					○		
	日照障害	日影の状況							
電波障害	電波受信状況								
風害	局所的な風の発生状況								
環境への負荷の量の程度により予測及び評価されるべき項目	廃棄物等	廃棄物			○		○		
		残土			○				
	雨水及び処理水					○			
温室効果ガス等	温室効果ガス	オゾン層破壊物質	△	△			△	△	
人の生活の豊かさに関する予測及び評価されるべき項目	コミュニティ	コミュニティ施設等	△	△	△	△	△	△	
	地域交通	自動車交通		○				○	
		バス等の公共交通			△			△	
	歩行者・自転車交通		△				△		
安全	危険物等の安全性の確保					△			

* 1 : 学校用地の造成の場合

注) 表中、選定項目以外の項目に対して、環境影響が相当程度となるおそれがあると認められる場合は、必要に応じて当該項目を追加すること。